

16 岩殿山

*一般向き 日帰り *適期 10月上旬〜5月下旬

M189

標高は低いが岩壁の連なる特異な山域。足元がストーンと切れている。鑛岩のトラバースや兜岩のミニ岩登り、稚子落しの歴史悲話と肝を冷やす大岩壁など、スリルあふれる山歩き。

東京方面からだ大月駅の手前からめざす岩殿山が車窓に広がり、迫力のある一枚岩の岩壁に心がはずむに違いない。

大月駅を降りたら甲州街道に出ないで、さつき通り商店街を左へ、線路を渡り、丁字路で右へ、さらに信号のある大通りは左へ折れると、目の前に岩殿山が聳えている。桂川を渡り、自動車に注意しながら山裾をゆるやかに登っていく。登山口に出るとほととす。

車の排気ガスに別れを告げて石段を登っていく。なにしろ急斜面なのでジグザグを切ってぐんぐん標高を稼ぐのが楽しい。舗装が終わって鳥居をくぐる。このあたりから大月市街の向こうに富士山が白く光る風景



岩壁の切れ落ちた稚児落し

がずっと続き、丸山公園の資料館の横を登る楽しいプロムナードである。一定のペースとリズムで登る練習にもなる。

登山口から標高200mほど足らずをゆつくり登って体調も整った頃、標高550mあたりで道が分岐する。直上は岩殿城跡、左は築坂峠・兜岩方面で今日のコースだが、ここまで来たのだから頂上の城跡まで登っておこう。10分足らずで頂上の一角の馬場跡に出る。南側のベンチでひと休みしながら、眼下の大月の町並みや九鬼山、三ツ峠、倉岳山、富士山などの懐かしい山々を眺めるのは楽しい気分だ。頂上の本丸跡へはほんのひと登り、電波塔が立っている。標高634mなので、高度計チェック

ークまでいってもいい。小さい山に秘められた意外な岩壁には誰もが驚くだろう。低山だからと、油断は禁物と肝に命じておこう。

稚子落しの最後のピークからは下りになる。もう岩壁の危険はないが、ほととすとしたところで木の根、岩屑には注意して下ろう。右下にちらほらと民家の白壁が見え、高度はぐんぐん下がる。やがてゆるやかに木の間を抜けると、沢を渡って民家の前に出て、道は立派な舗装路に変わる。少し先で丁字路に出て、左へと下る。

17 九鬼山

*一般向き 日帰り *適期 9月下旬〜5月下旬

M190

富士山を背に御正体山や杓子山、高座山が並び、御坂山塊の向こうには南アルプス中部の山々も顔をのぞかせる大展望がすばらしい山頂と、足元の時速500キロのリニアモーターカーを尻目に時速2キロで登る楽しさ。

アプローチが富士急行線の駅からすぐで、下山もまっすぐ駅へという

便利さは、バク気楽に出かけられる利点である。

クにいい。

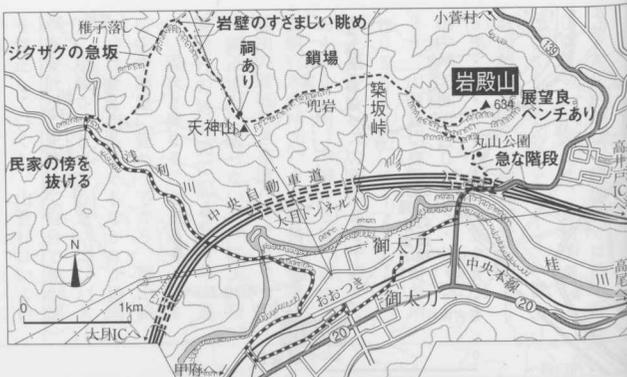
頂上から分岐まで戻り、いよいよ稚子落しへの山稜に入る。しばらくは急斜面を斜めに下っていく。西へ向きを変えて尾根を歩くようになる。築坂峠に下りつく。標高475mで、北に下れば下畑倉へいける。

この先で高圧線鉄塔に出合う。このあたりまでは普通の山道だったが、これから岩混じりの面白いコースに変わってくる。小さい岩を越えて10分ほどで丁字路の小さいピークに出る。左へ折れるとすぐに岩壁に出る。鑛岩で、足元は狭いバンドでスパッと切れ落ち高度感も十分。しかし手すりもあるので、落ち着いてゆつくり渡れば問題なくパス、すぐ岩の間をよじ登って上の登山道に出る。鎖や手がかりがあるので危険は少ない。岩場はあせらず、ゆつくりと三点確保で通過することが大切だ。

岩場から普通の山道を少し登って小ピークに出て、一転して標高差50mほど下り、登り返す。岩峰を巻いたのだ。あとはゆつたりといく。まもなく丁字路に登りつくので、左へ向かうと天神山の高圧線鉄塔が現れ

道標に注意して左側の民家と物置の間を抜け、吊橋を渡って対岸のバス道路に出る。バスの本数は少ないし、たぶんまだ歩き足りないだろうから、そのまま大月駅まで歩いていくといい。このバスは自由乗降制なので、歩いている途中でも手を上げれば停まってくれる。

道は中央自動車道の高架の手前でY字路となり、左の集落のなかをいく。中央道の下をくぐり、桂川を渡ってゆるやかに登り大月駅に向かう。しばらくは自動車と一緒なので端を二列で歩こう。



JR中央本線大月駅で富士急行線に乗り換え、禾生駅で下車。国道139号線に出て左折、10分ほどで落合橋を渡って右上にいく道に入る。道標に従って家並みのなかをいくとすぐ左へ、愛宕神社への道標に従って登る。すべりに標高430mほどに立つ神社を上に見て、登山道はゆるやかに登っていく。古い山仕事の道らし

◎岩殿山

JR中央本線大月駅(15分)登山口(50分)岩殿山(20分)築坂峠(40分)天神山(20分)稚子落し(30分)浅利(40分)大月駅
歩程 3時間35分
地形図 5万/都留 2.5万/大月
◎山行アドバイス
・岩殿山へは東側の円通寺コースと北の神宮橋コースもあるが、アプローチが長い。岩殿山頂上から縦走に入るとすぐ築坂峠に出るが、体調が悪かったり天候悪化の時は北への逃げ道になる。南へ下ると中央自動車道で行き止まりになるから注意。
・ヤマツツジ、ヤマブキ、桐、桜など季節の樹の花をはじめ、足下には4月中旬〜5月中旬にはチゴユリ、4月上旬〜下旬にはジュウニヒトエ、4月中旬〜5月中旬にはイカリソウ、3月下旬〜5月上旬にはタチツボスミレなどの里山らしい花が多い。

い、少しえぐれた溝状の山道で、アカマツの多い林の斜面なので涼しいのがあるがたい。

道標は要所にきちんと立っているの、まず不安はない。ようやく汗ばむ頃、右斜面をからんで登っていた道が一度稜線に出て、もう一度斜面をからんで急坂を登り切ると、ゆつたりとした尾根の上に出る。北東に向かっていた道は90度右に折れて南東に向かう。息を整えるのにもちょうどよいところだろう。



山頂直下の富士見平からの富士山と三ツ峠

く展望のよい広場につく。紺屋休場と呼ばれる場所で、大人数でもゆったり休める。

後はよい道をほぼ稜線どおりに下っていく。やがて稜線を直進して札金峠に向かうコースを右に分け、山腹を横切っていく道に入る。分岐点には「田野倉へ」の道標がある。札金峠付近では春先にチゴユリ、キンラン、ジュウニヒトエ、タツナミソウ、イカリソウ、ホウチャクソウ、

18 御正体山

*一般向き 日帰り *適期 9月中旬〜6月下旬

入山・下山時の足の不便さは、山の静けさを約束してくれる。深々とした樹林帯のしっとりとした登りと、頂上近くのブナ林の魅力が忘れがたい。

富士急行線都留市駅からのバスは少ないので、タクシーを利用したい。駅から10分ほどで細野の三輪神社、御正体山登山口につく。高度計を持つているなら標高645mに補正して右手の林道に入る。左に立つのが

加えて標高差100mほどの鉄砲登りになる。補助ザイルが張ってあるの、いくらか助かるが、呆れるような登りで、誰でも息を切らし、ふくらはぎが痛くなるだろう。この鉄砲登りが終わると、樹林の一部が切れて富士山が正面に見える平坦な尾根に出る。ここはどうしてもひと休みしたいところだ。

ゆるやかな尾根道は、もう一度傾斜を増して高度を稼ぐが、先ほどの直登に比べれば楽なもの。ゆつくりと登りつめれば、ポンと富士見平に飛び出す。山頂部の南西の肩にあたる場所、標高900m、カヤトの向こうには富士山を中心に三ツ峠や杓子山などがずらりと並んでいる。三角点のある山頂はここから3分ほどだが展望がきかないので、ここでゆつくり休んでいこう。南へ下る道は登り口で分かれた杉山新道だ。逆コースの時には急坂が少ないので下山路に選ぶとよい。

十分に休んだら北へ向かう。少しの登りで標高970mの九鬼山頂に出る。西側にわずかな展望があるだけの樹林の頂だ。

ママシグサ、ホタルカズラなどが目を楽ませてくれる。
札金峠から下ってきた道と合流し、左下へと折れて下ると、意外なほどの近さで林道に出る。沢の水音を聞きながら林道を足まかせに下っていくと札金鉱泉跡の廃屋があり、谷が明るくなれば富士急行線の線路が近づく。国道へ出ると車が騒がしいから、水路を渡って右の道に入れば、まもなく田野倉駅につく。

三輪神社、たんたんと延びる湿った林道はベースを整えるのによい。仏沢を渡ってまもなく755m地点で林道が終わり、登山道に入る。沢の水音を左下に聞きながら、深とした樹林帯を登っていく。94

◎九鬼山
富士急行線末生駅(15分)落合橋(10分)愛宕神社(1時間30分)富士見平(3分)九鬼山(15分)田野倉・朝日小沢分岐(25分)紺屋休場(20分)札金峠道との合流点(10分)林道(20分)札金鉱泉跡(20分)富士急行線田野倉駅
歩程 3時間48分
地形図 5万/都留 25万/大月、

下山路は北東方向へ向かい、急な斜面から尾根をたどるようになる。露石のあるやせた尾根の急下降なので、注意してゆつくり下ろう。やがてアカマツの林になり傾斜もゆるんでくると、ひと下りで道標にぶつかると、地面に落ちて右への道標は「朝日小沢・猿橋方面」で廃道に近い荒れた道。コナラの幹につけられているのは「札金峠に下る」。もちろん左へ、尾根から谷の源頭部の斜面を横切るように下っていく。多少足元の悪いところもあるが、まずは歩きやすい道だ。
斜面をからんできた道が尾根に出る。大月市と都留市の境界尾根だ。幅の広いゆるやかな下りで、まもなく



◎御正体山
富士急行線都留市駅(富士急都留中央バス25分/タクシー10分)御正体山入口・三輪神社(25分)林道終点(20分)沢を渡る(35分)今倉山展望地(50分)峰宮跡・鹿留分岐(30分)御正体山(40分)七合目(35分)林道(30分)御正橋(35分)唐沢(富士急都留中央バス50分)富士急行線富士吉田駅
歩程 5時間
地形図 5万/山中湖、都留 25万/御正体山、都留
◎山行アドバイス
・下山してからの帰路の足をどうするか、しっかり決めておこう。御正橋を通るバスの午後便は、13時40分前後の1便のみである。タクシー利用が一般的だ。
・都留市には富士急山梨ハイヤー都留営業所 ☎0554・43・2800、ツルタクシー ☎0554・43・

0m地点で2万5千分の1地形図にある直進路は消え、左の沢を渡って対岸の斜面を左上へと登って尾根に出る。ここからは広い尾根を緩急織り混ぜながら登る。1000mを越えたあたりで平らになり、やがてカラマツの林のなかを急登すると1190mで左手に展望が開ける。いま

都留
◎山行アドバイス
・急な登りはどうしても苦手という場合は、少しロングコースになるが、愛宕神社下で分かれる杉山新道を登ればよい。ただし、多少は楽かもしれないという程度に思ったほうがよい。
・水は途中で得られないので、必ず下から持っていく。

2349があり、細野までは約1900m。山中湖には、共和タクシー ☎0555・62・1313、富士急山梨ハイヤー山中湖営業所 ☎0555・62・0666、三立タクシー ☎0555・62・0149があり、御正橋からバスの便のある平野まで約4000m。平野からは、富士吉田駅行きのバス、また中央自動車道経由の新宿行き高速バスがある。
・御正体山に限らないが、国土地理院発行の地形図に記された登山道は、現状と異なることがある。とくに空中測量が変わってから、登山路のつけ替えがあってもなかなか地図上に反映されないようだ。コンパスや高度計などを使って自分で地形図を修正していくと、山登りはいよいよ面白くなる。

まではあまり大きな風景が見えなかったの、ひと息入れたくなる。北東方向の展望は今倉山や道坂峠、道志二十六夜山への稜線、尾巻沢対岸の集落も点々と見える。まだしばらくは急な登りが続くが、広くゆるやかな尾根に出てからはほぼ一定の傾斜で高度を稼いでいく。